

## 1：養蜂場ビーラボクリニックからのお願い

薬剤を注文されても販売できません！

動物用医薬品の販売は、薬剤師が管理する薬局か医薬品販売業者でなければはできません。また普通物であっても、効能を唱えて販売すれば改正薬事法（医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律）に触れます。しかし、弊社には獣医師が勤務する動物診療施設があり、診療上必要な薬剤を処方することができます。ただし、ご希望の薬剤を処方するとは限りません。問診や検査の結果によって、獣医師が有効かつ安全な薬剤を選択します。

病院で医師に「〇〇薬を下さい」とは、頼めないことをご理解ください。

日本ミツバチのアカリダニ症については、愛好家の間でギ酸パテが有効であるとの噂が広がって、弊社に「注文」が殺到して当惑しています。

ギ酸やチモールが有効なことは事実ですが、本来は西洋ミツバチの大型寄生ダニ・ミツバチヘギイタダニを駆除するために使用している薬剤です。

日本ミツバチは重箱式飼育のため、枠式の西洋種のように正確な群勢（群の大きさ）の判定ができず、薬剤の適量を正確に決めることが困難です。

どちらも蜂へのストレスがある薬剤で、投薬の結果かえって蜂群の逃去を招くこともあります。まず少量を投与してミツバチの様子を観察し、必要あれば途中で薬剤を撤去あるいは増量するような飼育者自身の判断が求められます。

春から初夏の群増殖期には、深刻な被害発生は少ないと思われれます。アカリダニは成蜂間でのみ寄生を繰り返します。この時期は外役活動で成蜂は野外で早く斃死する一方で、毎日多くの若蜂も生まれてきます。必然的にダニが気管内で増殖する期間も短くなり、通常群の寄生率はあまり上昇しません。

問題は秋です。外役活動が停滞し産卵が止まり、成蜂が補充されず老蜂の比率が高まると寄生率も急に上昇します。夏の間健康であったと安心することなく、徘徊蜂やKウィング翅などの特徴的な症状を見逃さないようにしましょう。もし発症すれば早めに対処することが重要です。

まず問診票を記入して送ってください。こちらからさらに問診することもありますので電話・メールアドレスの記載もお忘れなく！